

事務事業外部評価シート

事務事業名	情報教育アドバイザー活用事業	担当課・係	教育センター
-------	----------------	-------	--------

1. 事務事業の概要

事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)	事業目的(働きかける対象は何か？ ・対象をどのような状態にしたいか？)	政策体系(まちづくりの目的・方針)	
教育センターに配置した「情報教育アドバイザー」を佐野市立小中学校に適宜派遣して、各学校の情報化並びに情報教育の推進を図る。	対象 佐野市立小中学校の全児童生徒、教職員	基本目標	豊かな心を育む教育・文化づくり
		政策	豊かな心と確かな学力を育むまちづくり
		施策	特色ある教育と心の教育の推進
		基本事業	教職員の資質の向上
意図 ・児童生徒の情報活用能力が向上する ・教職員の情報機器の活用能力が向上する ・学校の校務が効率化される	事業期間		
	平成17年度～		
	根拠法令・条例等		
	佐野市「情報教育アドバイザー」活用要綱		

2. 事務事業の外部評価

外部評価委員の意見
<p>・アドバイザーの導入目的が、多数導入された情報機器に対応するためとのことだが、今後は教職員のスキルアップを促し、長期的な目線で廃止していくことも検討するべきだと考えられる。</p> <p>・個人情報の関係もあるので市が行う必要があるが、電子黒板の今後の普及を考えても、教職員経験者をアドバイザーとして設置することで、授業に幅を持たせることが可能になるのではないかと考えられる。</p> <p>・情報教育アドバイザーが常に対応してくれることが職員のスキルアップにはつながらないため、研修を開催したり、職員どおしで助け合うなど、成長を促していく必要があると思われる。</p> <p>・まずは教職員たちで対応し、常にサポートしてあげるべきではないのではないか。また、全部の学校を回れるような配置はするべきではないと思われる。目的を絞ってはつきりさせ、教職員側にも対応してもらう必要があると考えられる。</p>

3. 外部評価委員会としての評価結果

今後の方向性	方向性の内容
事業のやり方改善(成果向上)	<p>・アドバイザーに頼っているだけでは教職員のスキルアップにつながらないため、簡単なトラブル程度ならば学校側で対応できるよう成長を促し、長期的にはアドバイザーの仕事を減らしていけるように配慮すべきである。</p> <p>・今後、電子黒板等が普及することが想定される中で、アドバイザーが教職員経験者であれば授業に幅を持たせることができると考えられるため、今後の検討材料とするべきである。</p>

4. 評価結果を踏まえての市の検討結果

今後の方向性	方向性の内容
事業のやり方改善(成果向上)	<p>・簡単なトラブルは自主的に解決できるよう教職員のスキルアップを図る。</p>